には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム あぐり

日付

平成17年12月7日 特定非営利活動法人

┃評価機関名┃ ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験10年 評価調査員 在宅介護経験11年

評価調查員 老人保健施設介護実務経験4年、居宅支援

事業所介護支援専門員経験4年

評価調査員 在宅介護経験16年

自主評価結果を見る

(まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	代表者は訪問介護事業を経営しているが、在宅介護の矛盾や	*利用者と	家族が
	苦しんでいる状況に直面し、認知症高齢者を少しでも良くしてあ	げようとい	う強い
	思いで、このグループホームを開設した。「個別ケアで暮らせる」	居心地の自	見いグル
	ープホーム」を目指している。職員が決めた型にはめず、利用:	者の自由な	動きに
	応じたケアをしていこうとしている。		
	現実に病院で薬漬けになっていたり、拘束されて悲惨な状態	だった人も	、ここで
	は寄り添うことで、落ち着きを取り戻してきている。		
	利用者のありのままの姿や気持を認め、行動したい事を手助	けしていく	ことで、
	安らぎや落ち着きをもたらしてあげようとしている。		

生活空間づくり

<u> </u>			
番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	日 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 居室には利用者が必要な物を持ち込んでおり、「このペットはとても気持ち良く		
	て良く眠れるの」とよく見れば、畳敷きのベッドで、お布団がしいてある。家族の		
	気持ちが伝わってくる。		
	畳の間、寒い時は堀コタツに集まってお喋りに花が咲く。 自由	に振舞える	5雰囲
	気が、共に話しの中でいろんな事を考え、自分なりの消化がさ	れているよ	うに感
	じた。		
	広い庭や菜園もあるが、屋外の活用はまだこれから。利用者の	の運動やレ	クリエ
	ーションに活用していきたい。		

ケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平屋建てに、2ユニットが構成されており、内部はゆったり感がある造りになっている。開設以来半年を経 過したばかりのホームなので、代表者、管理者、職員の連繋や調和が固まり切っていないという印象が伺 えるが、代表者も一方のユニットの管理者を兼ねて、自ら現場に入って色々な課題に取り組みながら、『利 用者に自由気ままな生活。『その人らしさを大切にして、充実感や楽しみが持てる生活。をして貰えるよう 日ク努力している.

家族は、利用者が「以前と違って見違えるほど元気になった」とか「怒りがすくなくなった」と喜んでいる。き っと自分の思いが叶えられる自由さが、このような結果を生んでいるのだろう。

「職員のペースでなく、利用者の流れに合わせたケアをしていきたい」と言う代表者の利用者への強い思 いを、日々色々な場面で実践している。このグループホームの日常生活の中に、痴呆ケアの原点や基本的 な手法が見出せるだろう。職員がさらに研修を積み、共有できる指針を一つ一つ具現化していくことで、こ のホームがより良く成長していくのではないだろうか。ホーム長や職員の今後の努力を期待したい。

特に改善の余地があると思われる点

次のような提案をした

"介護は人なり"が基本であり、代表者の求めている姿であろうから、管理者と職員とのコミュニケーショ ンや研修を積み重ねて、お互いの信頼関係が最大のキーであることを考えて欲しい。

「職員が楽しくなければ、利用者が楽しくなれる筈がない」と言うことも重要で、グループホームの雰囲気 作りの基本である。その中から利用者は安らぎと充実感を味わえると思うので寄り添いや声掛けの仕方を さらに工夫し、利用者の意欲や能力を引き出してあげて欲しい。

グループホームの日常の生活の様子や職員の思いや努力を"たより"にして、家族や地域に情報発信し て、グループホームのことや認知症ケアの事を知って貰う努力をして貰いたい。

III ケアサービス(つづき)

選号 項目 できている 要改				
17 18 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 19 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援 20 ブライドを大切にした整容の支援 21 安眠の支援 22 金銭管理と買い物の支援 23 痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 24 身体機能の維持 25 トラブルへの対応 26 口腔内の清潔保持 27 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 28 服薬の支援 29 ホームに閉じこもらない生活の支援 30 家族の訪問支援	番号	項目	できている	要改善
19	17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
20 プライドを大切にした整容の支援 21 安眠の支援 22 金銭管理と買い物の支援 23 痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 24 身体機能の維持 25 トラブルへの対応 26 口腔内の清潔保持 27 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 28 服薬の支援 29 ホームに閉じこもらない生活の支援 30 家族の訪問支援	18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
21 安眠の支援 22 金銭管理と買い物の支援 23 痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 24 身体機能の維持 25 トラブルへの対応 26 口腔内の清潔保持 27 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 28 服薬の支援 29 ホームに閉じこもらない生活の支援 30 家族の訪問支援	19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
22 金銭管理と買い物の支援 23	20	プライドを大切にした整容の支援		
23	21	安眠の支援		
24 身体機能の維持 25 トラブルへの対応 26 口腔内の清潔保持 27 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 28 服薬の支援 29 ホームに閉じこもらない生活の支援 30 家族の訪問支援	22	金銭管理と買い物の支援		
25 トラブルへの対応 26 口腔内の清潔保持 27 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 28 服薬の支援 29 ホームに閉じこもらない生活の支援 30 家族の訪問支援	23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
26 口腔内の清潔保持 27 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 28 服薬の支援 29 ホームに閉じこもらない生活の支援 30 家族の訪問支援	24	身体機能の維持		
27 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 28 服薬の支援 29 ホームに閉じこもらない生活の支援 30 家族の訪問支援	25	トラブルへの対応		
28 服薬の支援 29 ホームに閉じこもらない生活の支援 30 家族の訪問支援	26	口腔内の清潔保持		
29 ホームに閉じこもらない生活の支援 30 家族の訪問支援	27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
30 家族の訪問支援	28	服薬の支援		
	29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
記述10日 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か	30	家族の訪問支援		
	記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		

利用者一人ひとりの思いが、自由に表現出来るホーム作りが進められている。こらから利用 者の持っている能力を見出して色々な生活の場面で活用していき、出来る喜びを味わって貰え るようにしていくことを期待している。

職員、管理者の運営方針「あなたの笑顔が主人公」「生きていて良かった」「居心地の良い生 活」を具体的に実行するための熱い思いが強く伝わってくる。

生活に満足感や充実感を持って貰うような支援をしていくには、その人の経歴や好み等を把握 し、充実した生活が何であるかを探してあげなければならないが、先ずは、その人の気持ちや言 いたいことを理解し同感してあげることだと思う。それには、気持ちを引き出すための声掛けや 会話の工夫も必要となる。その次には、出来る事をさせてあげる中で、褒めたり励ましたりしてあ げる事が大切ではないでしょうか。今後に期待している

IV 運営休制

番	号	項目	できている	要改善
3	31	責任者の協働と職員の意見の反映		
3	32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
3	33	家族への日常の様子に関する情報提供		
3	34	地域との連携と交流促進		
3	35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

開設からの日も浅く、多くの点でまだ手探りの状態であるのが実態だと思う。利用者に対する 職員の介護の質を高めていくために、外部機関での研修や他施設の見学などを十分に行って いくことも必要である。その一方で、職員間の連携がうまく行える体制を整えることも重要だと思

職員が自由に意見や悩みを言える会議や意見交換ノート等で、問題を提起し、共有し、管理者 の思いを伝えながら解決していくように、少しずつ努力していって欲しい。その積み重ねにより、 職員の介護レベルも向上し、その結果人材育成出来ることに繋がると思う。

また、グループホームでどのような介護をしているのか、利用者の様子や職員の思いを、家族 や地域に情報発信していき、来訪の多い家族の力や地域の人達の協力を得たり、交流を進め ていって貰いたい。 地域の中で高齢者特に認知症の人のケアのリーダーシップとなるよう、訪 問介護事業と共に今後の発展を期待する